

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 1958年4月19日の金環日食の8mm映画フィルム発見**

この8mm映画フィルムは元東京天文台太陽物理部にいた西恵三先生が朝日新聞の協力で、朝日新聞社の飛行機の上から撮影したものである。西恵三先生は1953年(昭和28年)3月16日に東京天文台に入られ、1986年(昭和61年)3月31日に定年退職されている。1982年(昭和57年)11月1日西恵三先生ご自身の講座がつき、東京天文台に新たな分光部を立ち上げられた。ここに新たな分光部と書いたのは、それ以前、1966年まで東京天文台には分光部(大沢清輝、斎藤国治の2教授を中心としていた)があったが、その分光部が恒星分類部、恒星分光部に分かれ分光部はきえていた。筆者は旧分光部に所属していた時期もあり、また新たな分光部発足前に西恵三教授の研究室に移っており、新たな分光部発足と同時に分光部所属になった。筆者は西恵三先生が定年退官された1986年(昭和61年)4月に大型光学赤外線望遠鏡計画に向けて東京天文台銀河系部へ異動していた。そして時は流れ、筆者も定年退職し、いろんな経緯を経て2006年10月天文情報センターに入り、筆者が2008年天文情報センターにアーカイブ室を立ち上げたことを知った西恵三先生は、この8mm映画フィルムをアーカイブの対象にすべく、筆者を訪ねて国立天文台においでになり、太陽物理関係の資料を保管してある部屋を2人で探したが発見できなかった。

そしてまた、時は流れ、2016年12月のある日、元太陽物理にいた入江氏が太陽物理関係の資料室から筆者に西恵三さんの名前が書いてある封筒に8mm映画フィルムがあると連絡してきた。急ぎ資料室に行くと、西恵三先生から伺っていた通りの封筒に入った8mm映

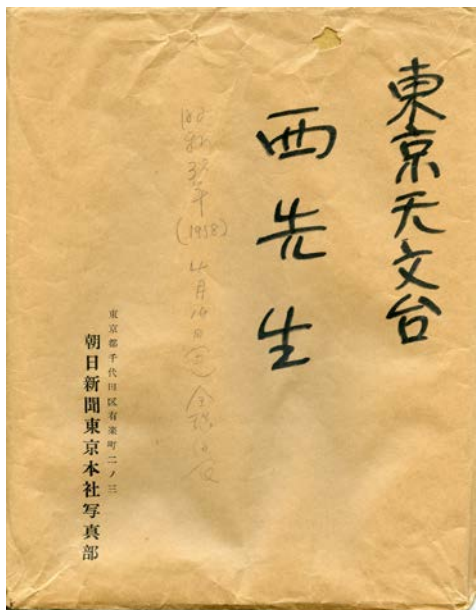


写真1

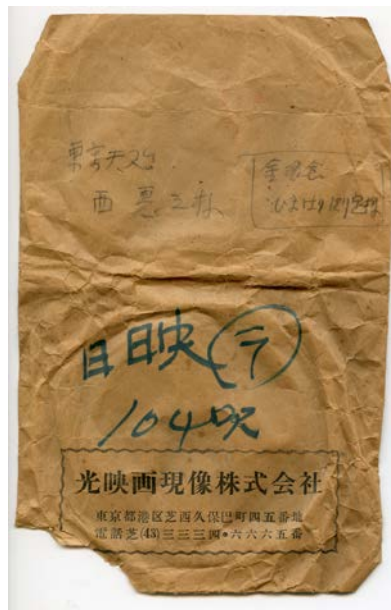


写真2

画フィルムがあったのである。写真1がその封筒、写真2が封筒に入ったフィルムの缶を入れた封筒である。写真3がフィルムの缶が入っていた封筒の裏に書かれた西恵三先生のメモ、写真4が8mm映画フィルムの缶の蓋に書かれたメモである。

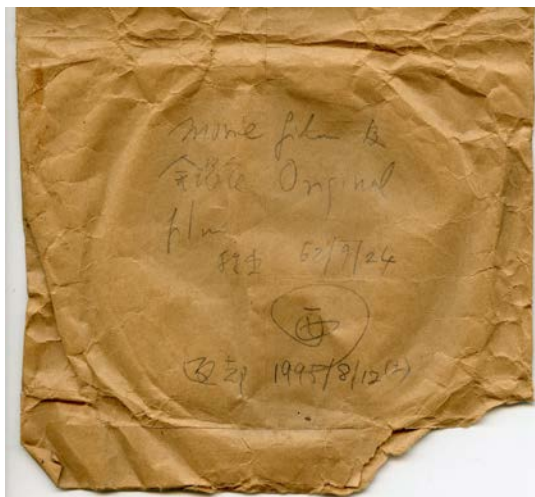


写真3



写真4

写真5が、フィルムの缶からリールを取り出したところである。フィルムの状態は良いように思われる。



写真5

最近、8mm映画フィルムの上映は難しいが、DVDにダビングしてくれる業者がある。このフィルム自体もアーカイブするのはもちろんであるが、DVDにダビングして鑑賞できるよう手配を進めている。

西恵三先生は、2013年1月22日にお亡くなりになっている。生前にこのフィルムを発見できなかったのは非常に残念である。この金環日食の8mm映画フィルムは西恵三先生の定年退官の際、当時の太陽部門の長であった桜井隆氏に託されて、その桜井隆氏が定年退

職され、その資料が太陽関係の資料室に移され、入江氏によって発見されたという経緯であった。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp